

青少年教育施設職員研修

報告書

国立赤城青少年交流の家では、4月14日（火）～4月17日（金）の3泊4日の日程で、教育事業「青少年教育施設職員研修」を開催しました。この事業は、新規採用となった職員が青少年教育施設職員として必要な指導スキルを修得する機会とするとともに、施設間連携を生み出す関係づくりの機会とするものです。参加者は、群馬・栃木・埼玉・山梨・長野から7施設14名が参加しました。

初めに、本研修は「今年度新規採用となった青少年教育施設職員を対象としている」ことを確認し、研修がスタートしました。また、もう一つのねらいである「施設間連携を生み出す関係づくりの機会」を作るため、一日の研修終了後には職員同士のふりかえりを行いそれぞれの立場から意見を交換していくことで、新しい発見や得るものの多い研修となった等の感想が聞かれました。

【1日目】

「青少年教育施設における体験活動の重要性」では、体験活動がどのような影響をあたえるのかを学びました。また、「青少年教育施設職員に必要なホスピタリティとは（接遇研修）」では、FMぐんまパーソナリティでフリーアナウンサーの奈良のりえ氏にロールプレイを交え講義をしていただきました。そして、「青少年教育施設職員に必要な資質とは」についてワークショップ形式で学びました。



「青少年教育施設における
体験活動の重要性」

みんなに体験してもらいたいこと

- ・ 自然体験
- ・ 生活体験
- ・ 社会体験



「青少年教育施設職員に必要な
ホスピタリティとは（接遇研修）」
社会人の基本 名刺交換



「青少年教育施設職員に必要な資質とは」
理想の施設職員をテーマに熱く語り合いました

【2日目】

「コミュニケーションプログラム」では、アイスブレイクをした後、活動を通しお互いの信頼関係を高めるプログラムを体験しました。「青少年教育施設に求められる役割について」では、社会は時代と共に変化している。青少年教育施設はどうあるべきか。場の提供の仕方とプログラムについて考える必要があることを学びました。



「コミュニケーションプログラム」
満開の桜の木の下でアイスブレイク



「青少年教育施設に求められる役割について」
これからの施設のあるべき姿について
考えを深めました

【3日目】

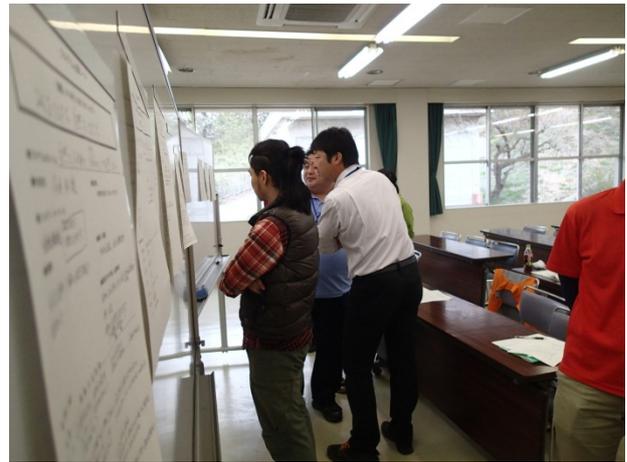
「野外体験活動に必要な基本的スキルについて」では、ロープワーク、テント張り、刃物、火起こしの方法を学びました。「体験活動プログラムの企画ーアクティビティ編ー」では、企画とは、企てることであり、思いを形にすることであることを学び、課題から自分の考えた企画書を作成しました。また、「あなたの施設を活かした事業企画のポイント」では、自分の施設の強みと弱み、ハード面・ソフト面を洗い出しました。



「野外体験活動に必要な基本的スキルについて」
火起こし体験 薪が水分を含んでいて大変でした



「体験活動プログラムの企画ーアクティビティ編ー」
ランチプレート作りを体験



みんなで企画書を検討



「あなたの施設を活かした事業企画のポイント」
他施設の職員とお互いの施設について意見交換

【4日目】

大東文化大学中村先生による「自然体験活動における安全管理とファーストエイド」について、講義と実習を行いました。「安全が活動の範囲を広げる」こと、リスクは予測知ることにより最小限にすることができる。リスクをなくす事が目的ではなく、常にリスクを予測しながら活動することが大切であることを理解しました。

最後に、講習のまとめとふり返しを行いました。実施後のアンケートより参加者からの意見感想として、「自分の施設では初任者研修を十分行える余裕がないので、広げて行って欲しい。また紹介していきたい」や、今回2年目の職員も参加していたが、「自分を見つめ直し、技術も向上し、さらなるステップアップもできた」との意見をいただきました。そして、「施設同士の交流にもなるし、個人としてはネットワークを広げることができた。」といった感想をいただきました。

(文責・新井)



「自然体験活動における安全管理と
ファーストエイド」
AEDを使用した心肺蘇生の実習